

本日は色彩感ある華やかなオーケストラサウンドをお楽しみください。それは弦楽器群に加えて、木管楽器は華やかさを、金管楽器はエネルギー感を、打楽器はリズムカルさとアクセントを、ハープはキラキラを、といった様々な音色の組み合わせが加わることで生まれます。また森の中の静けさから、打ち上がる花火や群衆の叫びまでのダイナミックな音量の変化。そして高ぶった感情のエネルギーから斬新で美しい響きへと変化する和声の流れに溢れています。

ベルリオーズ / 序曲「ローマの謝肉祭」

フランスの作曲家ベルリオーズは色彩感ある華やかなオーケストラサウンドの代表的一人で、41歳のときに『管弦楽法』を出版し、後の音楽界に大きな影響を与えました。

序曲「ローマの謝肉祭」はオペラなどの序曲ではなく、演奏会序曲と呼ばれる単一楽章の中にストーリーや場面描写のある管弦楽曲です。謝肉祭はカーニバルとも呼ばれ、カトリックで肉食を控える禁欲的な「断食」を行うその直前に思いっきり羽目を外す風習が起源のお祭りです。中間部のコールアングレやヴィオラの歌い込みが深ければ深いほど、前後の華やかな乱痴気騒ぎが引き立ちます。



ベルリオーズの大規模オーケストラを風刺した絵

ファリャ / 「三角帽子」第2組曲



ファリャ (1876-1946)

ファリャはベルリオーズよりも70年以上後に生まれました。生涯母国スペインを愛し、スペインを題材にした曲を多く残しています。フランスで学び、デュカス、ラヴェル、ドビュッシーとも親交を結んだ彼の作品は、軽やかで歯切れのよい心踊るのが特徴です。

この曲はバレエ音楽からの抜粋で、「三角帽子」をかぶった代官が粉屋の女房の色っぽい踊りに目を奪われに横恋慕します。1. 近所の人たちの踊りは聖ヨハネ祭を祝う踊りです。1つのメロディにどんな楽器が重なっているか気にしながら聴いてください。2. 粉屋の踊りは夫の踊りです。弦楽器の和音はまるでフラメンコギターの様です。ファゴットで演奏される好色な代官は最後には住民たちにボコボコにされてます。3. 終幕の踊りは悪代官を凝らしめた村人たちの喜びに溢れ、粉屋夫妻はハッピーエンドというストーリーです。



ピカソによる初演の舞台美術



アメリカ初演でダリが担当した代官の衣装

ベルリオーズ / 幻想交響曲

「ある芸術家の生活のエピソード」と副題のあるこの交響曲は、作曲家自身の失恋体験を題材にした標題音楽です。それは恋の悩みに苦しんで服毒自殺を図った若い音楽家が、アヘンの量が不足に苦しみながら見た幻想です。まどろみの中のようなイントロから始まる第1楽章「夢、情熱」で主人公は目の前に現れた女性に燃えるような感情と、胸を締めつけるような思いに駆られます。長いイントロの後にヴァイオリンが絡み合うフレーズは市響ヴァイオリンパートの腕の見せ所です。第2楽章「舞踏会」での再開。彼女はざわめきの中でもひとときわ輝いています。2台のパープが加わり、ファゴットは休みです。二人はすぐに恋に落ち、第3楽章「野の風景」心安らぐ田園地帯で暮らします。2人の羊飼いの呼応（コールアングレとオーボエ）は2人が育んだ愛のようです。ところが若い音楽家の高い感受性がそれを邪魔します。主人公の不安を表すように遠くの雷鳴がだんだん近づき、羊飼いの呼応を途切れさせます。雷鳴は4台のティンパニ、4人の奏者で立体的に表現されています。その夜、訳なき不安を抱えた音楽家は恋人を殺してしまいます。死刑宣告を受け第4楽章「断頭台への行進」へと引き立てられ、大勢の観衆の目の前でギロチンにかけられ首がコロんと切れ落ちます。主人公の葬儀では第5楽章「魔女の夜宴の夢」が繰り返されます。ケークケケケケ、ヒヒヒヒ、ワッハッハッハ、ゲロゲロゲロゲロ、ケタケタ、ギャーの中、愛する彼女の旋律がグロテスクに現れてロンドを踊ります。お甲いの鐘と葬儀の歌。狂乱の内に曲は終わります。この曲が書かれたのはベートーヴェン第九の初演6年後というから、多彩な楽器編成によるサウンドの先進性に驚かされます。



作曲当時のベルリオーズ



ベルリオーズが恋に落ちた女優ハリエット・スミスソン後に結婚した